

患者への治療計画説明に関するコミュニケーション分析 — 学生による気付き —

鬼塚千絵¹⁾、近藤 元²⁾、喜多慎太郎¹⁾、永松 浩¹⁾、木尾哲朗¹⁾、寺下正道¹⁾

¹⁾ 九州歯科大学 総合診療学分野

²⁾ 九州歯科大学 学生

抄録 医療面接における会話を量的および質的に分析し、良質な医療面接法を明らかにしていくことを目的とし、研修歯科医（研修医）と模擬患者（SP）間で行われた医療面接の「患者への治療計画の説明」のビデオを分析した。逐語録（トランスクリプト）を作成し、言語コミュニケーションの内容について分析し、また、患者に対する継続的な視線、うなずき、表情の変化等の非言語コミュニケーションについて分析した。模擬患者からの評価が高く、適切な説明の方法をとっていたと思われる研修医は、患者が説明を理解しているかを確認する質問が多かったのに対し、模擬患者からの評価が低く、適切でない説明の方法をとっていたと思われる研修医はこの質問が少なかった。評価の高い研修医は「自分が伝えたいとき」、「患者が意見を言うとき」の両方に患者に視線を向けていたが、低い研修医は「自分が伝えたいとき」だけであった。

キーワード 医療面接、医療コミュニケーション、研修歯科医、模擬患者（SP）

緒 言

医療面接の目的として良好な患者医療者関係を作り出す、患者から必要な情報を聞き出す、患者に対して説明や教育を行うという3つの役割軸がある。これらの面接の目的が達成されることで良好な医療者—患者関係が得られれば、患者の医療者に対する信頼度が向上すると考えられる。しかし、歯科においてどのような医療面接が患者の信頼を向上させるかについては具体的な検証があまり行われていなかった。我々は初診時医療面接の研修歯科医（研修医）と模擬患者（SP）の対話に関して、量的分析法の一つである Roter's Interaction Analysis System (RIAS)¹⁾を用いて分析し報告した²⁾。初診時医療面接においては、SPが高い評価をした研修医の発話数が多かったカテゴリーは医学的な状態に関する閉じた質問（【?Med】）、許可の要請（【?Permission】）、理解の確認（【Check】）であった。また、SPが高い評価をした研修歯科医に対して、SPは同意・理解（【Agree】）、医学的な状態に関する情報提供（【Gives-Med】）のカテゴリーの発話数が多かった。

今回、研修医とSP間で行われた「患者への治療計画の説明」について、臨床実習前の歯科学学生目線で適切であると思う説明、適切でないと思う説明について検討を行ったので報告する。

対象および方法

研究対象は平成21年度の九州歯科大学附属病院研修歯科医の医療面接スキルアッププログラム「初診時医療面接」・「指導歯科医への報告」・「患者への治療計画に関する説明」の一連の流れで行った3ステーションのうち、「患者への治療計画に関する説明」で録画された60例のビデオである。60例のビデオの中から、SPの評価が最も高い研修医9名、最も低い研修医6名の計15名のビデオを抽出した（図1）。抽出された15例のビデオを歯学科5年生の臨床実習直前の学生1名が繰り返し視聴し、その中で学生自身が適切な説明だと思うもの（参考となる部分が多いもの）1例（以下「良い説明」）、適切でないと思うもの（絶対に真似をしたくないもの）1例（以下「悪い説明」）を選び、逐語録（トランスクリプト）を作成した。言語コミュニケーションについてRIAS (Roter's Interaction Analysis System)¹⁾を用いて分析した。さらに、非言語コミュニケーションについて、研修医の患者への継続的な視線、うなずき、表情の変化のタイミングや頻度について調べた。

なお、この研究は九州歯科大学研究倫理委員会の承認を得て行った。参加者である研修医およびSPに研究目的と内容、ビデオ撮影に関する説明を行い、書面にて承諾を得た。